

## 「サマーイエロー」、 「精雲」 の採穂部位、 定植時期と温度管理

鹿島地帯特産指導所

キーワード：キク、 トウジメ、 ジギワメ、 テイショクジキ、 オンドカンリ

### 1. 技術の要旨

夏秋ギクの「サマーイエロー」、 「精雲」 の自然日長下において、 地際芽利用の挿し芽苗では2月定植の無加温栽培、 冬至芽利用苗では2月定植の無加温栽培か3月定植のパイプハウス栽培区でどちらとも切り花品質が良い結果を得られた。

### 2. 成果の内容

- 1) 品種「サマーイエロー」、 「精雲」 を20株供試し、 採穂部位に冬至芽と地際芽の挿し芽苗を用いて無加温パイプハウスで定植時期の違い（2月から5月）及び、 温度管理（最低温度10℃、 内張一層無加温ハウス、 無加温パイプハウス）と定植時期の違い（2月、 3月）が開花及び、 品質に及ぼす影響について調査した。
- 2) 採穂部位では地際芽は冬至芽に比べ到花日数は小さかったが、 切り花長は短く、 切り花重も軽くなる傾向が見られた。
- 3) 定植時期では定植時期が遅くなるに従い到花日数が小さくなった。また切り花長も定植時期が遅くなるほど短くなった。
- 4) 温度管理では温度管理状態が良い区ほど到花日数は小さくなった。しかし、 切り花長が短くなり、 切り花重も軽くなるなど品質的に劣る傾向となり、 特に最低温度10℃加温区ではいずれの区でも十分な切り花長は得られなかった。
- 5) 以上の結果から自然日長下においては加温処理は到花日数を小さくする効果があったが、 切り花品質が劣るなど問題が残り、「サマーイエロー」では地際芽利用の2月定植無加温栽培か、 冬至芽利用の2月定植無加温栽培、 3月定植パイプハウス栽培、「精雲」では地際芽利用の2月定植無加温栽培、 3月定植パイプハウス栽培、 冬至芽利用の無加温栽培が品質的にも良い結果を得られた。

### 3. 情報活用上の留意点

鹿島南部砂土地帯に適する。

品種「サマーイエロー」、 「精雲」 において適用する。

4月以降の定植は、 切り花品質に問題がある。（データ略）

### 4. 試験課題題名・試験期間・担当研究室

砂地における夏ギクの作期拡大と高品質栽培技術の確立・平成7年～10年

## 5. 具体的データ

表1 パイプハウスでの開花状況と切り花形質<sup>注1)</sup>

定植時期	採穂部位	品種	開花日 月日	到花日数 <sup>注1)</sup> 日	茎長 cm	花首長 cm	葉数 枚	切り花重 g
2月 9日	地際芽	サマーイエロー	6. 1±4. 1	106	92	3. 9	38. 2	122
		精雲	6. 25±2. 9	130	122	6. 2	57. 4	173
	冬至芽	サマーイエロー	6. 6±6. 0	111	96	4. 9	40. 5	115
		精雲	6. 27±2. 8	132	126	6. 6	55. 2	159
3月 11日	地際芽	サマーイエロー	6. 3±6. 2	77	80	6. 2	28. 3	89
		精雲	6. 23±3. 9	97	109	6. 9	44. 8	140
	冬至芽	サマーイエロー	6. 13±6. 0	87	96	7. 0	35. 4	100
		精雲	6. 30±4. 0	104	113	5. 6	47. 5	114

注1) 調査日：満開時 注2) 到花日数：摘心日～開花日

表2 サマーイエローの開花状況と切り花形質<sup>注1)</sup>

定植時期	採穂部位	保温管理	開花日 月日	到花日数 <sup>注1)</sup> 日	茎長 cm	花首長 cm	葉数 枚	切り花重 g
2月 9日	地際芽	加温硬質ハウス	5. 1±4. 3	75	72	2. 9	24. 2	50
		内張一層ハウス	5. 27±4. 3	97	93	3. 9	35. 1	95
		パイプハウス	6. 1±4. 1	106	92	3. 9	38. 2	122
	冬至芽	加温硬質ハウス	5. 6±6. 3	80	72	2. 8	26. 4	51
		内張一層ハウス	5. 27±4. 2	101	94	3. 8	37. 2	103
		パイプハウス	6. 6±6. 0	111	92	3. 9	40. 5	115
3月 11日	地際芽	加温硬質ハウス	5. 15±2. 2	58	57	3. 7	21. 0	42
		内張一層ハウス	5. 25±2. 9	68	63	6. 0	22. 6	68
		パイプハウス	6. 3±6. 2	77	80	6. 2	28. 3	89
	冬至芽	加温硬質ハウス	5. 22±5. 0	65	69	3. 4	25. 2	52
		内張一層ハウス	6. 6±5. 4	80	83	6. 0	30. 0	77
		パイプハウス	6. 13±6. 0	87	96	7. 0	35. 4	100

注1) 調査日：満開時 注2) 到花日数：摘心日～開花日

表3 精雲の開花状況と切り花形質<sup>注1)</sup>

定植時期	採穂部位	保温管理	開花日 月日	到花日数 <sup>注1)</sup> 日	茎長 cm	花首長 cm	葉数 枚	切り花重 g
2月 9日	地際芽	加温硬質ハウス	5. 21±6. 2	95	86	4. 9	37. 9	98
		内張一層ハウス	6. 14±4. 9	119	112	7. 2	50. 1	168
		パイプハウス	6. 25±2. 9	130	122	6. 2	57. 4	173
	冬至芽	加温硬質ハウス	5. 22±4. 7	96	89	4. 9	36. 6	92
		内張一層ハウス	6. 11±4. 7	116	101	7. 7	43. 0	129
		パイプハウス	6. 27±2. 8	132	126	6. 6	55. 2	159
3月 11日	地際芽	加温硬質ハウス	5. 31±6. 7	74	77	5. 4	33. 8	104
		内張一層ハウス	6. 13±6. 1	87	89	8. 2	37. 7	127
		パイプハウス	6. 23±3. 9	97	109	6. 9	44. 8	140
	冬至芽	加温硬質ハウス	6. 11±5. 7	85	89	5. 5	37. 5	106
		内張一層ハウス	6. 25±3. 9	100	116	6. 5	47. 9	154
		パイプハウス	6. 30±4. 0	104	113	5. 6	47. 5	114

注1) 調査日：満開時 注2) 到花日数：摘心日～開花日